循環器内科研修プログラム

プログラム指導者　猪子　森明

1. 経験、習得すべき事項

問診、身体所見、そして生理検査を含めた検査所見に基づいて循環器内科疾患の診断、鑑別を行えること。また、初期治療に関する知識の習得、技術のトレーニングを目標とする。2回目にローテーションをする際は、専攻医に準じてより専門的な診断の手技・手法、より高度な治療方法の習得を目指す。

① 頻度の高い循環器症状（胸部痛、背部痛、心窩部痛、呼吸困難、息切れ、動悸、浮腫）の鑑別を行えること。問診は重要である。“Listen to the patient, he is telling the diagnosis.” これが基本である。

② 問診、身体所見、検査所見をもとに診療計画を立案できること。

③ 心電図、心エコー、運動負荷心電図検査、心血管 CT の実施と判定ができること。

④ 急性循環不全、心原性ショックへの初期的対応技術の習得

⑤ BLS、ACLS が実施できるようにする。

⑥ 以下の病態に緊急対応できる知識の習得

⑦ 急性心筋梗塞、不安定狭心症、急性心不全、重症不整脈、大動脈解離、肺血栓塞栓症

⑧ 担当医として以下の循環器疾患の症例を受け持ち、診断、治療を行う。

⑨ 心筋梗塞、狭心症、心不全、各種不整脈、閉塞性動脈硬化症、大動脈疾患、肺高血圧症、弁膜疾患、心筋症、高血圧

2. 指導体制

研修医は指導医の指導のもとで患者の診療にあたる。入院時のアセスメント、初期診療から始まり、入院翌日のケースプレゼンテーション、検査計画、治療方針策定から問題解決へと指導を受けながら診療に当たる。回診日には 1 週間のサマリーを報告する。適宜エビデンスを確認して該当する疾患の診療方針を学ぶとともに、担当症例の特異性を把握する。

3. 週間スケジュール

① 毎朝 8 時 30 分から CCU 回診とモーニングカンファレンスを行う。心臓センター全員が出席し、前日の入院、重症患者のプレゼンテーション、前日の手術、カテーテル検査報告を行い、診療方針について討議する。

② 2. 部長回診は毎週水曜の 9 時 00 分から 2 時間程度行う。

③ 3. 循環器カンファレンスは毎週火曜の午後 18 時 00 分から行う。

④ 4. 毎週木曜の 17 時から内科クリニカルカンファレンス（または CPC）には参加すること。

⑤ 5. 心エコーカンファレンスは毎週火曜の 16 時から行う。

⑥ 6. 心臓カテーテル検査（PCI や PTA 含む）は月、火、木、金曜（緊急症例では随時）、不整脈アブレーションは水、木曜日、心臓 CT は火、水、木曜日午後、心臓RIは月、木曜日午前、心臓 MRI は木曜日午後に行う。またトレッドミル運動負荷は毎日午後に行う。

⑦ 7. 多職種による心疾患チーム医療（集学的治療）を可能にするための心不全、心臓リハビリカンファレンスは毎週月曜日に開催している。

⑧　8. 外来は毎日 2 診（月曜・金曜午前は 3 診、金曜午後は4診）を開設している。

⑨　9. ハートチームカンファレンス（心臓血管外科との合同カンファレンス）は火曜、心不全カンファレンスは水曜に開催している。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
朝	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
午前	心カテ RI	心カテ	部長回診 アブレーション	アブレーション 心カテ RI	心カテ
午後	心カテ	心カテ CCT ハートチームカンファレンス	アブレーション CCT 心不全カンファレンス	アブレーション 心カテ CCT、cMRI	心カテ ペースメーカー外来
夕方	心リハカンファレンス 不整脈カンファレンス	心エコー カンファレンス		内科 CC CPC	

4. 評価方法（研修終了時に評価する）

指導者は定められた書式によって評価を行う。評価項目には、医学の基本知識、技術、問題把握能力、コミュニケーション能力、症例呈示能力、勤務態度、協調性、責任感などの項目が含まれる。

5. 当循環器内科における研修の特徴

①　循環器内科は緊急を要する重症例が多く、時間のロスなく、円滑なチームワークに裏打ちされた治療が必要である。看護師、検査技師、臨床工学士、理学療法士などのコメディカル・スタッフと協力し、チーム医療の一構成員として、患者に迅速かつ質の高い医療を提供するよう務められたい。

②　循環器内科では、胸痛、呼吸困難感など強い不安感を伴う症状が多く、患者への同情と共感による取り組みが重要である。基本的な知識と技術の習得に満足せず、自らも更に高いレベルへの到達を目指す努力と忍耐が大切である。

③　一次予防、二次予防への取り組みも重要であり、危険因子の把握と対処に習熟するとともに心臓リハビリテーション（運動療法を含む）の知識を深めることも重要である。